

2025年4月 第1回定例会議

1. 日時: 2025年4月22日(火) 16:30~18:00
2. 場所: 青葉サイエンスホール
3. 議題
 - a. 趣旨説明
 - i. 学生定例全体会議とコーヒーブレイク
 - ii. スケジュール
 - b. 自己紹介
 - i. エレベータピッチ(45秒自己紹介)
 - c. 今後の定例会議の運営について
 - i. 議長: 宮岸太一(工・量子エネルギー D1)
 - ii. 書記: 金野直人(理・地球物理 M2)
 - iii. 世話人: 池本敦哉(工・土木 D2)
4. 写真撮影

-
- 世話人: 池本敦哉
 - 定例会議の時間を無駄にしたくない
 - レビュー論文を書いてNatureに出したい
 - 質問: 浮田
 - レビュー論文を作るのはいいが, 膨大な分野でそう言っても難しい.
 - 災害科学と遠く離れた分野にいる人も多い.
 - どうやってマネジメントするか
 - 池本
 - リスクが共通言語. リスクは必須.
 - 実装できないと意味がない.
 - 社会に落とし込んだ時に使えるかどうか議論しなければならない
 - リスクをキーワードにしてい
 - 浮田
 - やるのはいいが, みんなのやる気を保つのが難しい.
 - SyDE70人を全員共著にするのか
 - 池本
 - 70人全員共著がベスト?
 - 留学生を巻き込めない, というのを終わりにしたい. 留学生も含めて全員で行う.
 - 全員に刺さるようなものはない. 一本くらいなら...
 - 岸田
 - 経済学研究科の論文と理系の論文は毛色が違う.
 - 池本
 - リスクに関するものだったらなんでもいい.
 - むしろ別の分野の知識が欲しい
 - 松下

- それぞれの研究テーマをマッピングするとよい.
- 池本
 - 採用
- 梅宮
 - 去年はどうだった？
- 宮岸
 - 先生を読んだり, それぞれの研究テーマについて話し合ったりしていた
 - 問題点: 曖昧な議論が多かった.
 - 言語の壁
 - 専門分野が違うため, 説明だけで終わってしまう.
 - アウトプットも大したものできていない
- 梅宮
 - SyDEの目的の一つに「異分野交流」がある
 - どの議論でもそれは達成できているのでは
 - 目的意識を全員が持つべき
 - 「外部の方を呼ぶ」というのも魅力的.
 - 「論文執筆」や「外部の方を呼ぶ」のどちらのほうがいいのか
- 岩原
 - 議論のテーマに「この問題に対してSyDEの学生なら何ができますか」というのがあったが, 議論するだけで実際に実行できていない
 - 漠然としている, というのは明確なゴールがないから
 - 論文でもアウトリーチでもいいが, 「ゴールを決める」というのが大事.
- 池本
 - 「今, どうすればよくなるのか」を議論
 - 世話人の決定からスタート
 - 定例会議への態度の現れ
 - 「自分の研究にフォーカスした方が良い」はだめ
 - 共通の方向に向かう, という手段の一つにレビュー論文があった
 - 問題点
 - 専門が違うためニーズが定まらない.
 - Specificではなく一般的Generalになってしまう.
 - みんなのメリットを最適化するとすると, レビュー論文が良いと考えた
- 大沼先生
 - 前期では去年と同じ方式で行う
 - 後期でどうするか, 目標を後で決める

